

頑張る 農業法人

「当地では正月三日が日鳥居、下の6集落で圃場には、今でも納豆餅を食べ整備が完了した。農地保べて祝う習慣が残る。伝全や伝統の納豆継承など統の納豆やみそ造りを継を指し、各農家組合が承し、山国地域の振興に一緒になって「六ヶ地域向け有限会社を設立し「営農組合」を結成。転作した」。地域住民で立ち上で白大豆栽培に力を入れた京都市右京区京北塔た。納豆餅の製造を始め、町の農業生産法人・(有)山国さきがけセンターとして人気を集めた。

さらに農協合併に伴い、旧J A京北町が取り組んでいたみそ製造施設を引き継いだ。これを地域活性化の拠点とするため、また、遊休農地を活用するため、2001年6月に、山国自治会や同農家組合、町会などでも有限会社を設立した。J A京都市行政も応援した。大相さんは「全住民550戸の支援を受け、心強い」と地域ぐるみの結束を喜んでいる。

京北は市北部の山里。平安時代から愛用された、納豆の発祥地の一つとされている。

1991年に同地域内の比賀江、中江、塔、辻役員は11人。忙しい時

(有)山国さきがけセンター 京都市 右京区京北



大豆畑を背景に、納豆餅やみそなどを手にする大相代表取締役(左)と仲上泰夫専務

伝統の納豆餅を継承

米や大豆作り加工で活力

京北などで販売している。みそは、地元京北地域だけでなく、食農教育に熱心な、京都市内の多くの小学校の給食に使用されている。

一方、イノシシ、鹿が多く生息し、管理圃場に電柵などを張り巡らせているが、収穫時期の獣害対策も課題になっている。

行政の支援を受け、来年3月には、倉庫跡地に新たな加工施設を建設。製造拡大や新商品を開発して6次産業化や加工体験室での交流、観光農園設置など、新たな地域活性化拠点を目指す。大相さんは「高齢化が進む中、農業担い手として地域活性化の役割を果たして、美しい景観を守り、地域の絆をより深める」という抱負を持っている。

▽法人所在地 京都市右京区京北塔町宮ノ前32
電話 075(853)0572

期には15人ほどのアルバイトを雇用する。

現在もち米、うるち米

を2・7鈴、大豆2・6みそ、漬物などを製造し、黒大豆、ソバなどをしている。これをJ A京都50軒に作付け。加工施設農畜産物直売所「たわわで納豆、納豆餅、白餅、朝霧」、道の駅ウツデイ